

四半期報告書

(第57期第3四半期)

自 平成29年10月1日

至 平成29年12月31日

内外テック株式会社

東京都世田谷区三軒茶屋二丁目11番22号

目次

頁

表紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 1
- 2 事業の内容 1

第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク 2
- 2 経営上の重要な契約等 2
- 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等 4
- (2) 新株予約権等の状況 4
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 4
- (4) ライツプランの内容 4
- (5) 発行済株式総数、資本金等の推移 4
- (6) 大株主の状況 4
- (7) 議決権の状況 5

2 役員の状況 5

第4 経理の状況 6

1 四半期連結財務諸表

- (1) 四半期連結貸借対照表 7
- (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 9
 - 四半期連結損益計算書 9
 - 四半期連結包括利益計算書 10

2 その他 14

第二部 提出会社の保証会社等の情報 15

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年2月9日
【四半期会計期間】	第57期第3四半期（自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日）
【会社名】	内外テック株式会社
【英訳名】	Naigai Tec Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岩井田 克郎
【本店の所在の場所】	東京都世田谷区三軒茶屋二丁目11番22号
【電話番号】	(03)5433-1123（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 佐々木 政彦
【最寄りの連絡場所】	東京都世田谷区三軒茶屋二丁目11番22号
【電話番号】	(03)5433-1123（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 佐々木 政彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第56期 第3四半期連結 累計期間	第57期 第3四半期連結 累計期間	第56期
会計期間	自平成28年4月1日 至平成28年12月31日	自平成29年4月1日 至平成29年12月31日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
売上高 (千円)	14,852,985	20,629,696	20,918,989
経常利益 (千円)	449,981	894,541	849,329
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益 (千円)	350,085	571,571	626,905
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	376,504	636,317	666,364
純資産額 (千円)	2,442,300	5,059,604	2,732,065
総資産額 (千円)	12,513,739	17,662,282	13,149,070
1株当たり四半期（当期）純利益金額 (円)	143.98	216.53	257.83
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	19.5	28.6	20.8

回次	第56期 第3四半期連結 会計期間	第57期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成28年10月1日 至平成28年12月31日	自平成29年10月1日 至平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	48.97	53.16

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 平成28年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期（当期）純利益金額を算定しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間につきましては、引き続き、国内経済、世界経済ともに総じて緩やかな成長が続きました。一方で、世界的には、米国の経済政策運営、新興国等の経済動向や地政学的リスクなどの不安定要因も依然として残りました。

当社グループの業績に大きな影響を与える半導体・半導体製造装置市場では、データセンターの処理量の増大やストレージのSSD化に伴ってメモリ需要は一層増大し、特にDRAMや3D NAND型フラッシュメモリへの設備投資が高水準で推移しました。また、ロジック半導体への設備投資も引き続き活発に行われたことにより、半導体製造装置市場は好調に推移しました。

また、FPD（フラットパネルディスプレイ）製造装置市場では、中国市場でのテレビ用の大型液晶パネル向けの設備投資が活発に継続しました。韓国市場においてもモバイル機器用の中小型有機EL・液晶パネル向け設備投資が継続したことなどにより、FPD製造装置市場は好調に推移しました。

このような状況のもと、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、主要取引先である半導体・FPD製造装置メーカーからの受注が好調に推移したことから、売上高206億29百万円（前年同期比38.9%増）、営業利益9億5百万円（前年同期比95.0%増）、経常利益8億94百万円（前年同期比98.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益5億71百万円（前年同期比63.3%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①販売事業

半導体・FPD製造装置などの各種コンポーネンツ（部品）及び同装置等の販売事業におきましては、主要取引先である半導体・FPD製造装置メーカーからの受注が引き続き好調に推移したことにより、売上高189億53百万円（前年同期比38.2%増）、セグメント利益6億11百万円（前年同期比150.9%増）となりました。

②受託製造事業

半導体・FPD製造装置などの組立及び保守メンテナンス等の受託製造事業におきましては、主要取引先である半導体・FPD製造装置メーカーからの受注が引き続き好調に推移したことにより、売上高32億3百万円（前年同期比68.5%増）となりましたが、人員確保・教育などの新規受託・増産態勢整備のための先行投資が発生したことなどにより、セグメント利益2億85百万円（前年同期比40.5%増）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における、グループ全体の研究開発活動の金額は22百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通しについて重要な変更はありません。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ45億13百万円増加し、176億62百万円となりました。この主な要因は、現金及び預金が28億66百万円、受取手形及び売掛金が4億6百万円、電子記録債権が4億83百万円、商品及び製品が1億64百万円増加等、流動資産が39億86百万円増加したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ21億85百万円増加し、126億2百万円となりました。この主な要因は、支払手形及び買掛金が2億76百万円、電子記録債務が20億64百万円増加し、社債及び長期借入金（1年内を含む）が4億38百万円減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ23億27百万円増加し、50億59百万円となりました。この主な要因は、資本金が6億89百万円、資本剰余金が10億21百万円、利益剰余金が5億22百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の20.8%から28.6%となりました。

(6) 経営者の問題認識と今後の方針について

「半導体が電子機器産業の技術革新には欠くことのできないもの」という従来からの認識に変わりがないことに加え、今後中長期的なIoT、ビッグデータ、AIといった産業分野の市場拡大見通しを背景に、その需要の着実な増加が見込まれることから、半導体産業や半導体製造装置産業は今後も有力な産業であると考えています。

その一方で、半導体産業は成熟期を迎え、市場環境の変化に伴って再編の動きも活発化しており、技術革新や製品コスト競争力のほか、幅広い需要への対応が求められていると考えています。

当社グループは、このような事業環境のもと、取引先のニーズに迅速に応え、確固たる経営基盤を構築するため、営業力、生産力の向上をはじめとした取引先対応力の強化の他、対処すべき課題への取り組みを着実に進めてまいります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,500,000
計	8,500,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年2月9日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	2,929,000	2,929,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	2,929,000	2,929,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成29年9月5日 (注)1	334,500	2,870,500	587,027	976,955	587,027	909,105
平成29年9月25日 (注)2	58,500	2,929,000	102,663	1,079,619	102,663	1,011,769

(注) 1. 有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)

発行価格 3,745円

発行価額 3,509.88円

資本組入額 1,754.94円

2. 有償第三者割当(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資)

発行価格 3,509.88円

資本組入額 1,754.94円

割当先 みずほ証券株式会社

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 2,000	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 2,926,300	29,263	—
単元未満株式	普通株式 700	—	—
発行済株式総数	2,929,000	—	—
総株主の議決権	—	29,263	—

②【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
内外テック株式会社	東京都世田谷区三軒茶屋 二丁目11番22号	2,000	—	2,000	0.07
計	—	2,000	—	2,000	0.07

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,100,150	6,966,444
受取手形及び売掛金	※ 5,016,223	※ 5,423,117
電子記録債権	※ 584,777	※ 1,067,916
商品及び製品	660,447	825,037
仕掛品	76,080	99,826
原材料及び貯蔵品	48,277	87,162
繰延税金資産	67,762	47,284
その他	31,411	52,234
貸倒引当金	△3,014	—
流動資産合計	10,582,116	14,569,022
固定資産		
有形固定資産		
土地	878,612	849,185
その他(純額)	620,452	1,016,984
有形固定資産合計	1,499,064	1,866,170
無形固定資産	100,321	139,581
投資その他の資産	967,567	1,087,507
固定資産合計	2,566,953	3,093,259
資産合計	13,149,070	17,662,282
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※ 2,869,846	※ 3,146,214
電子記録債務	※ 3,242,111	※ 5,306,916
1年内返済予定の長期借入金	654,300	557,220
未払法人税等	240,715	200,316
賞与引当金	96,300	58,000
その他	486,719	773,185
流動負債合計	7,589,993	10,041,853
固定負債		
社債	336,000	259,000
長期借入金	1,684,031	1,420,035
繰延税金負債	24,644	53,127
退職給付に係る負債	595,095	616,676
長期未払金	66,850	66,850
資産除去債務	14,101	14,406
その他	106,288	130,728
固定負債合計	2,827,011	2,560,824
負債合計	10,417,004	12,602,677

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	389,928	1,079,619
資本剰余金	322,078	1,343,612
利益剰余金	1,925,824	2,448,770
自己株式	△29,185	△564
株主資本合計	2,608,644	4,871,437
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	115,111	179,616
為替換算調整勘定	8,309	8,550
その他の包括利益累計額合計	123,420	188,166
純資産合計	2,732,065	5,059,604
負債純資産合計	13,149,070	17,662,282

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	14,852,985	20,629,696
売上原価	13,168,503	18,237,352
売上総利益	1,684,482	2,392,343
販売費及び一般管理費	1,220,002	1,486,788
営業利益	464,479	905,555
営業外収益		
受取利息	2,589	2,516
受取配当金	5,196	6,970
受取賃貸料	6,453	2,363
仕入割引	6,279	10,867
助成金収入	120	—
その他	8,625	11,952
営業外収益合計	29,263	34,669
営業外費用		
支払利息	40,367	34,706
その他	3,393	10,977
営業外費用合計	43,761	45,683
経常利益	449,981	894,541
特別利益		
固定資産売却益	—	8,573
特別利益合計	—	8,573
特別損失		
投資有価証券評価損	—	19,171
特別損失合計	—	19,171
税金等調整前四半期純利益	449,981	883,943
法人税等	99,896	312,371
四半期純利益	350,085	571,571
親会社株主に帰属する四半期純利益	350,085	571,571

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益	350,085	571,571
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	33,272	64,504
為替換算調整勘定	△6,853	240
その他の包括利益合計	26,419	64,745
四半期包括利益	376,504	636,317
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	376,504	636,317
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

【注記事項】

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(追加情報)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
受取手形裏書譲渡高	15,470千円	3,571千円

※ 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の第3四半期連結会計期間末日満期手形が当第3四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
受取手形	—千円	25,749千円
電子記録債権	—	3,369
支払手形	—	64,470
電子記録債務	—	964,498

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
減価償却費	33,877千円	56,593千円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月13日 取締役会	普通株式	24,319	5	平成28年3月31日	平成28年6月24日	利益剰余金

(注) 平成28年6月23日開催の第55回定時株主総会決議により、平成28年10月1日付で普通株式2株を1株とする株式併合を行っております。1株当たり配当額については、株式併合前の金額を記載しております。株式併合を考慮した場合の平成28年5月13日取締役会決議の1株当たり配当額は10円となります。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月12日 取締役会	普通株式	48,625	20	平成29年3月31日	平成29年6月9日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額については、株式併合後の金額を記載しております。

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成29年9月5日を払込期日とする、公募増資による新株式334,500株の発行及び自己株式102,700株の処分を行いました。また、平成29年9月25日付でみずほ証券株式会社から第三者割当増資58,500株の払込みを受けました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金は689,691千円、資本剰余金が1,021,534千円それぞれ増加し、自己株式が28,621千円減少しました。当第3四半期連結会計期間末において資本金は1,079,619千円、資本剰余金は1,343,612千円、自己株式は564千円となりました。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	販売事業	受託製造事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	13,677,558	1,175,426	14,852,985	—	14,852,985
セグメント間の内部売上高 又は振替高	35,921	726,074	761,995	△761,995	—
計	13,713,480	1,901,500	15,614,981	△761,995	14,852,985
セグメント利益	243,675	202,924	446,600	17,879	464,479

(注) 1. セグメント利益の調整額17,879千円は、各セグメントが負担する営業費用及び営業外収益の消去差異等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	販売事業	受託製造事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	18,880,714	1,748,981	20,629,696	—	20,629,696
セグメント間の内部売上高 又は振替高	72,947	1,454,561	1,527,509	△1,527,509	—
計	18,953,662	3,203,543	22,157,205	△1,527,509	20,629,696
セグメント利益	611,354	285,119	896,474	9,081	905,555

(注) 1. セグメント利益の調整額9,081千円は、各セグメントが負担する営業費用及び営業外収益の消去差異等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	143円98銭	216円53銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	350,085	571,571
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	350,085	571,571
普通株式の期中平均株式数(千株)	2,431	2,639

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 平成28年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年2月9日

内外テック株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石田 勝也 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 唐澤 正幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている内外テック株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、内外テック株式会社及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年2月9日
【会社名】	内外テック株式会社
【英訳名】	Naigai Tec Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岩井田 克郎
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都世田谷区三軒茶屋二丁目11番22号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長岩井田克郎は、当社の第57期第3四半期（自平成29年10月1日 至平成29年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。